

未来へのパスポート 将来のために金融の知識を身につけよう

お金があっても幸せになれるとは限りません。ただし、お金に不自由すると不幸せになる確率が高くなると思ってます。

チャンネル登録
お願いします

<https://youtu.be/0c32YtoJjEU?si=Gm2RT1ac3LSltFos>



3LSltFos

荒武コンサル事務所
荒武貞雄

鹿児島出身 福岡県立小倉高校・早稲田大学法・1981三和銀行(現三菱UFJ銀行)。銀行18年、投信会社18年、生命保険2年、コンサル事務所5年

aratake.sadao@gmail.com

・よく伺うご意見

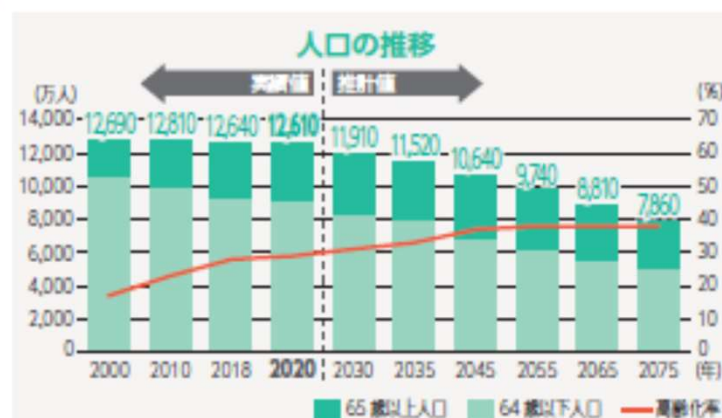
- 運用についてよくわからない
→わかりやすく理解できれば
- 損をしたくない
→損をする可能性をかなり低くできれば
- お金がない
→できる金額で積み立てを始めましょう
- タイミングがわからない
→タイミング考えないでよければ
- 目的、目標がない
→いつまでに、いくら資産を持つか決めることができれば
- 運用について良い話をあまり聞かない
→一部の話を切り取ってるだけでは？

将来、生活にかかる費用は、 今より増加していくと予想されています。

1-1

少子高齢化などの社会環境の変化に伴い、生活にかかる費用は今後ますます増加していくと予想されています。また現状、預貯金の金利が低いので、預貯金するだけでは、お金をなかなかふやせない状況でもあります。

原因1 社会保険料や税金の増加



今後日本は少子高齢化により、64歳以下の割合が減り、65歳以上の割合が増加していくといわれています。

つまり、働く人は減っていくのに、社会保障の給付が必要な人はふえ、その補てんのために1人当たりの社会保険料や税金が現在よりさらに増加すると予想されているのです。



原因2 物価の上昇 デフレ※1 からインフレ※2 へ



2013年より、物価(モノやサービスの価格)が上昇する傾向にあります。

物価が上昇すると、当然生活に必要なお金も増加していきます。

1965年当時の1万円は、2021年時点では約4万円の価値があり、約57年で物価が約4.2倍に上がったといえます。

出典：日本銀行ウェブサイト

日本証券業協会
発行「資産運用と
証券投資」より抜
粋

※1 デフレ…デフレーションの略。物価が継続して下落していく状態のこと。
※2 インフレ…インフレーションの略。物価が継続して上昇していく状態のこと。

人生にかかるお金ざっと3億円

将来予想されるイベントまでにお金を準備するには？

「何のために」「いつ」「いくら必要」を整理すると、お金の計画「マネープラン」ができます。

あらかじめマネープランを立てておけば、いつまでにどのくらいお金を準備しておけばよいのかが明確になお金を準備する手段や方法を、長期的な視点でイメージしやすくなります。



マネープランを立てて、お金を準備できれば、より確実にイベントを実現することができます。



ライフイベントにはどのくらいお金が必要？ - ①



結婚にかかる費用の目安

結婚・婚約から新婚旅行までにかかった各費用の平均額

	全国(推計値)	全国	首都圏
結婚式や両家顔合わせ、 婚約・結婚指輪購入などの費用	85.1万円	総額 371.3万円	総額 421.2万円
挙式、披露宴などの費用	303.8万円	関西	東海
新婚旅行などの費用	33.9万円	総額 367.9万円	総額 362.1万円

※調査年度の項目別平均額の単純合計

出典:リクルート ブライダル総研「ゼクシィ 結婚トレンド調査2022調べ」



ライフイベントにはどのくらいお金が必要？ - ②



子どもに係る費用の目安

●出産費用 50.6万円 (全国平均) 出典:国民健康保険中央会「統計情報出産費用(平成28年度)資料」

●幼稚園～高校までの教育費

	幼稚園(3～5歳)	小学校	中学校	高校	合計
公立	49.5万円	211.5万円	161.6万円	153.8万円	576.4万円
私立	92.6万円	1,000.1万円	430.9万円	316.3万円	1,839.9万円

※学校教育費、学校給食費、学校外活動費の合計

出典:文部科学省「令和3年度 子供の学習費調査」

●大学4年間の教育費

国立 572.7万円 公立 549.1万円 私立 771.4万円

※大学授業料の学費及び生活費の平均額の合計

出典:日本学生支援機構「令和2年度学生生活調査」



マイホーム購入金額の目安

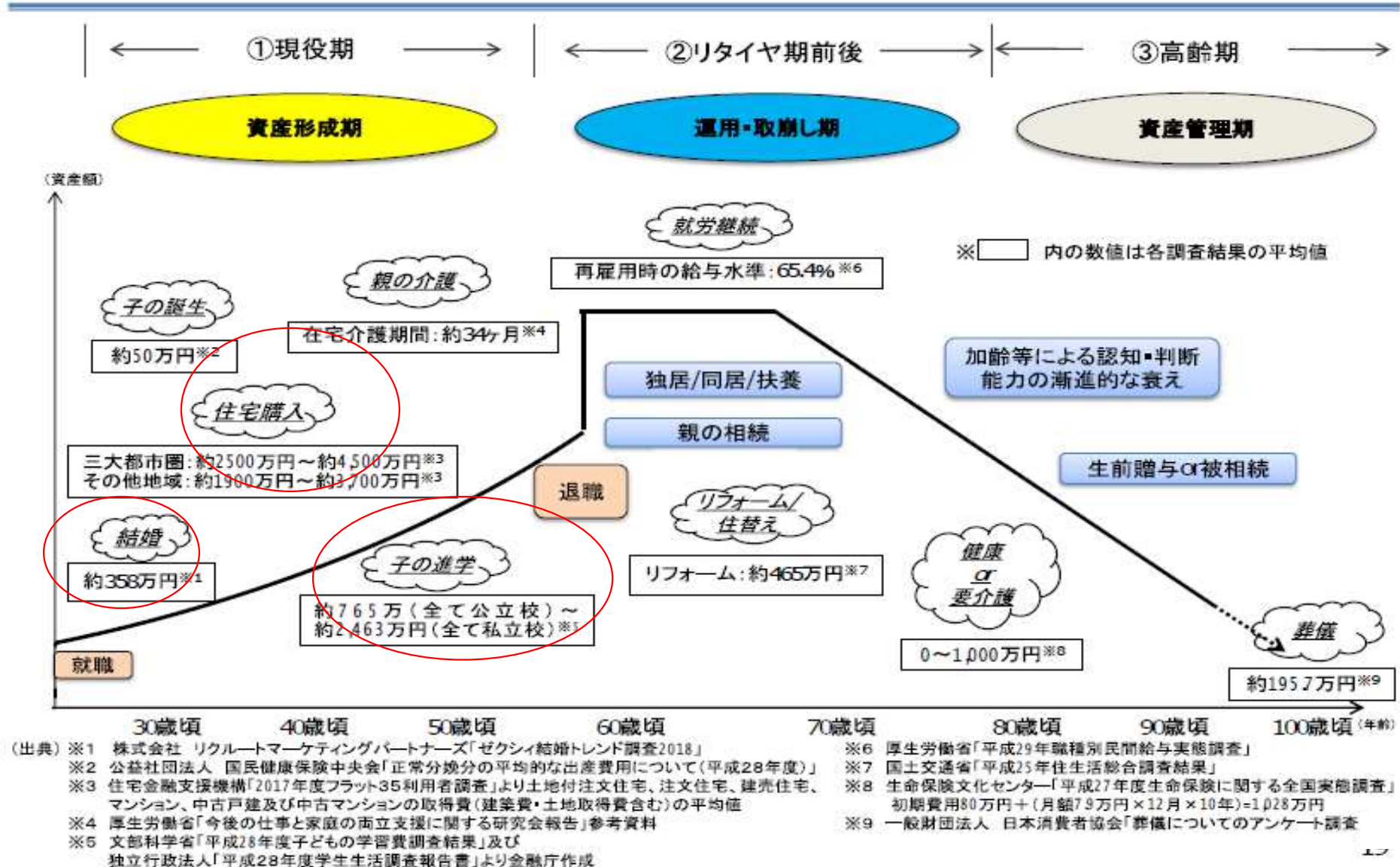
購入価額(平均) 下段:手持金	土地付注文住宅	新築住宅	新築マンション	中古マンション
全国	4,455.5万円 412.3万円	3,604.9万円 270.0万円	4,528.5万円 785.9万円	3,025.8万円 418.9万円
首都圏	5,132.6万円 508.7万円	4,133.3万円 327.3万円	4,913.4万円 877.8万円	3,295.1万円 463.1万円
近畿圏	4,658.5万円 429.6万円	3,578.2万円 281.5万円	4,477.6万円 792.0万円	2,654.1万円 367.5万円
東海圏	4,379.2万円 378.1万円	3,138.6万円 177.5万円	4,261.9万円 538.9万円	2,208.0万円 244.0万円

出典:住宅金融支援機構「2021年度フラット35利用者調査」

日本証券業協会発行「資産運用と証券投資」より抜粋

人生100年時代のライフプラン ①

ライフステージに応じて発生する費用等の例



出典: 金融審議会市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」(金融庁)

本資料に掲載のデータは、経済や市場等の過去のデータ及び出所元が公表する予測データであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。



これからのライフイベントをチェックしてみよう。

就職、結婚、教育(子育て)、住宅購入、転職、退職、老後などのライフイベントの予定と、そのイベントのため、「いつまでに」「いくら必要」なのを書き出してみましょう。

年齢	イベント	年齢	イベント
	～20代		50代
	30代		60代
	40代		70代～

・別紙の「かなえたい私の夢」という用紙に夢を記入してみてください。

・次にとなり方に夢を説明してください。その時に資金がどれくらいいるのかも話してみましょう。

・次に夢に日付を入れてください。

(例)

26歳	海外旅行	40万円
30歳	9月 挙式	300万～400万円
35歳	住宅資金	450万円～



日本証券業
協会発行
「資産運用と
証券投資」よ
り抜粋

「かなえたい私の夢」

あなたが実現したい夢は何ですか? (例) <ul style="list-style-type: none">・喫茶店を開きたい・子供たち全員大学院に進学させたい・大型ヨットを買いたい	
夢の実現に向けての準備すべき資金額 配布資料ご参照ください <ul style="list-style-type: none">・子供 1 一人大学 4 年間 約 600 百万円・自宅購入 4000 万円など	
夢に日付を入れてください。 何年後ですか? そのためにいつから行動しますか?	
自由記述欄・メモ欄	

資産運用シュミレーション

[資産運用シュミレーション：金融庁 \(fsa.go.jp\)](https://fsa.go.jp)

- 2000万円期間 10年 利回り5%
→毎月積立金額 128,798円
- 2000万円期間 20年 利回り5%
→毎月積立金額 48,658円
- 2000万円期間 30年 利回り5%
→毎月積立金額 24,031円

・時間を敵に回さない。複利の力を利用する。

・ お金と生活を見える化する

1. 出発点～今後の人生を描いてみる

- まず、2つのことを、考えてみてください。

- ① いま、人生のどの時点にいるか？ ➡ 今後の人生をどのようにしたいか？
- ② いま、お金はどれくらいあるか？ ➡ 今後の見通しはどうか？

- 今後の人生を描いてみるのが、「お金と生活の知恵」の第一歩です。
- 今後の人生の方向を描くことは、自分にしかできません。また、人生とお金の問題は切り離せません。
- 今後の人生についてよく考えてみることで、お金の問題とも向き合うことが、より良い方向（より安心できる生活など）に向かう出発点となります。

日銀知るポルト「大人のためのお金と生活の知恵」より抜粋

2. ライフプランとお金を結びつける

- 次に、もう一步、具体的に考えてみましょう。

- ① 今後の人生や生活に関する希望を書き出してみる。希望を実現するために、どの程度のお金が必要か、考えてみる。

例：老後も夫婦で趣味や旅行を楽しみ、月〇万円くらいの支出を続けたい。

- ② お金に関する現在の状況を確認する（収入と支出、資産とローン）。また、今後について見通してみる。

例：いま資産が〇万円ある。給与や年金は、今後、〇万円程度もらえると思う。

例：年金と資産の取りくずしで、年間〇万円の支出を、〇歳まで続けられそう。

【参考】年金をまだ受給していない方は、「ねんきん定期便」等で受給額を確認しましょう。

- ③ 上の2つを考えあわせ、今後の生活とお金について、「課題」を発見する。

- 金額は概算で十分です。大まかでも、把握すること（「見える化」すること）に意義があります。

日銀知るポルト「大人のためのお金と生活の知恵」より抜粋

3. 見えてくる「課題」

- 「課題」を発見したら、書き出してみましょう（「見える化」）。計画や行動に結びつけやすくなります。以下のような課題が考えられます。

【課題の例】

- ☐ お金が足りなくなりそう。
- ☐ 今後の生活や支出を見直す必要がある。
- ☐ お金を増やしたい。運用のノウハウを知りたい。
- ☐ だまされないようにしたい。
- ☐ 次世代に貢献したい。



- ➡例えば、お金が足りなくなりそうな場合、今後の生活や支出を見直しましょう。
- ➡お金を運用して増やそうとする前に、お金の管理や運用についての知識を身につけましょう。
お金に関する取引で、だまされないためのポイントも紹介します

大切なのは収支をコントロールすること

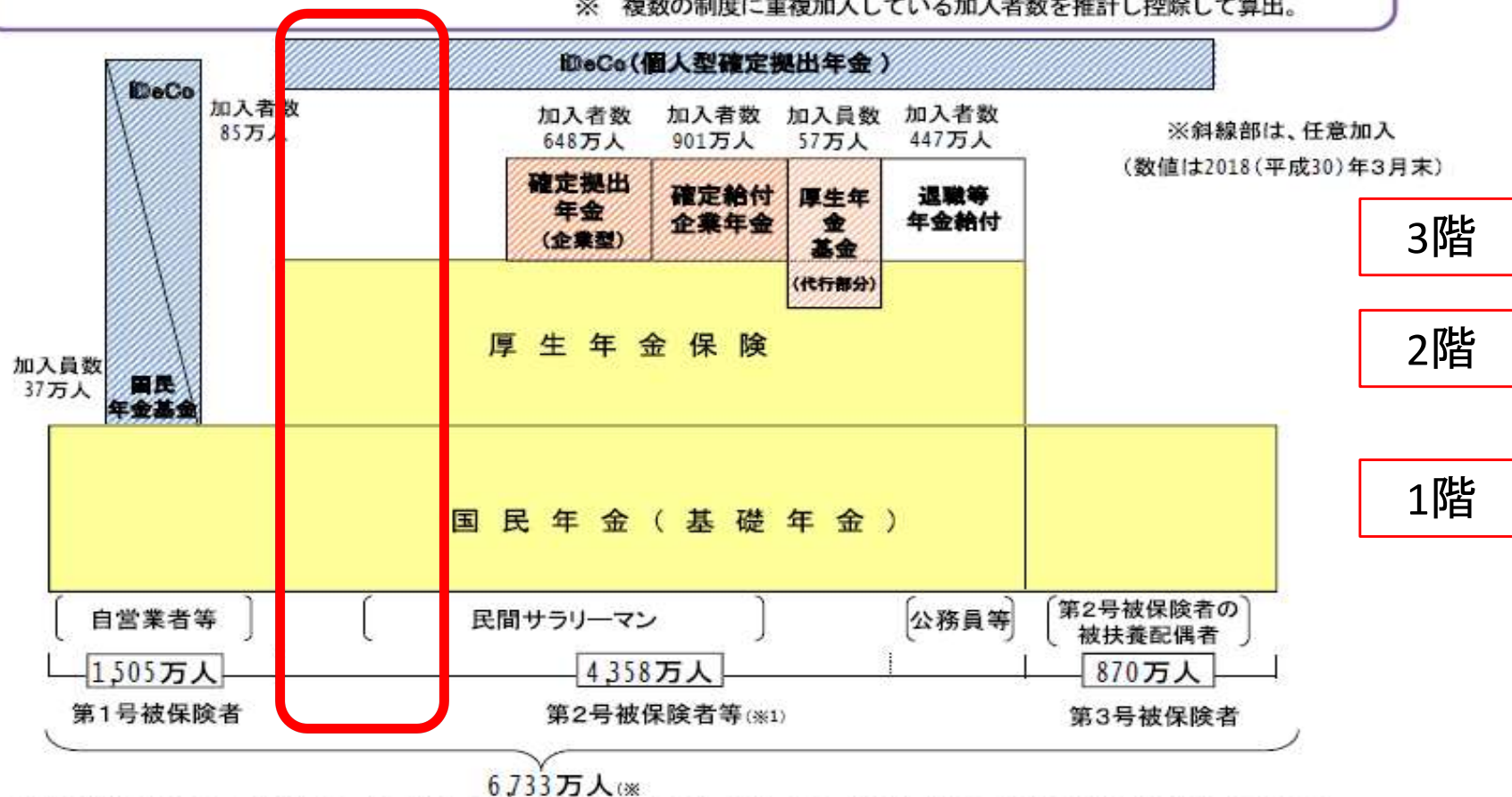
自分たちの年金制度について

現状認識

iDeCo公式サイト | iDeCo(イデコ・個人型確定拠出年金)【公式】
(ideco-koushiki.jp)

年金制度の体系

- 20歳以上65歳未満人口に対し、企業年金・個人年金の加入者の割合は、25.0%
 - 厚生年金被保険者に占める企業年金・個人年金の加入者の割合は、38.9%
- ※ 複数の制度に重複加入している加入者数を推計し控除して算出。



※1 第2号被保険者等とは、厚生年金被保険者のことをいう(第2号被保険者のほか、65歳以上で老齢、または、退職を支給事由とする年金給付の受給権を有する者を含む)。

※2 20～65歳未満人口は、6,965万人。人口推計(2018(平成30)年9月)調べ。

(出典) 第21回市場ワーキング・グループ 厚生労働省提出資料

出典: 金融審議会市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」(金融庁)

本資料に掲載のデータは、経済や市場等の過去のデータ及び出所元が公表する予測データであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。

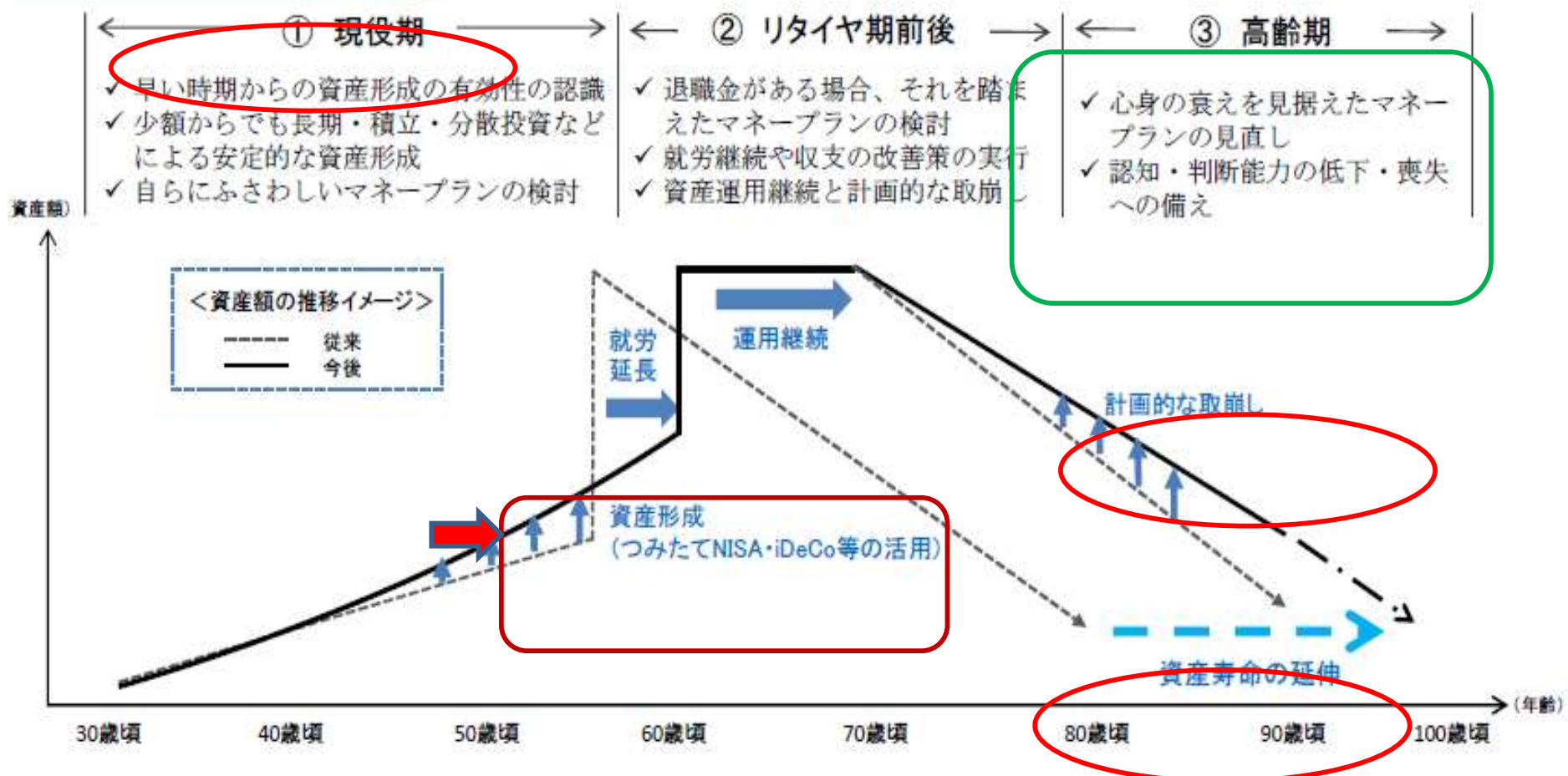
人生100年時代のライフプラン

考えておきたいライフプラン

高齢社会における資産形成・管理

参考資料

ライフステージ別の留意点



出典: 金融審議会市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」(金融庁)

本資料に掲載のデータは、経済や市場等の過去のデータ及び出所元が公表する予測データであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。

ライフステージ別の注意点

①現役期の注意点

- なるべく早くライフプランに基づく資産形成をスタートすること。
- 家族の収入・人生観・健康などによって許容できるリスク量(損益のブレ幅)を確認すること。
- 「長期投資、時間分散投資、投資対象の分散、非課税、税制優遇」を忘れないこと。
- 今年度から新しいNISA制度スタート、大幅拡充に注目。iDeCoの活用も考える。

②リタイア期前後の注意点

- 退職金などを一度に資産運用に回さないようにしましょう
- 今まで資産運用の経験のない方は小さなリスクと金額から始めて練習しましょう。
- 資産を大きく増やすことより資産価値を守る行動を意識しましょう。とるべきリスク(損益のブレ幅)は年齢とともに小さくしていきましょう。

③高齢期の注意点

- 70代では徐々にマネープランを見直しましょう。
- 計画的取り崩しにより資産寿命を延ばすこと。
- 身体機能と認知機能の衰えへの対策を早めに着手すること。特におひとり様などの家族構成に対応。

出典: 金融審議会市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」(金融庁)

本資料に掲載のデータは、経済や市場等の過去のデータ及び出所元が公表する予測データであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。

3 「貯める・増やす」～ 資産形成

[金融リテラシー啓発用共通教材「コアコンテンツ」～大学1コマ90分用の金融リテラシー・モデル講義資料～ | 知るぽると \(shiruporuto.jp\)](#)



3-1. 資産形成

- (1) 低金利のもとでは、預金・貯金だけでは資産は増えません。

- (2) 確かに、株式や投資信託などの投資運用商品は元本割れの可能性があります（投資は自己責任です）が、ちょっとした工夫で、元本割れの可能性を軽減することが期待できます。

- (3) キーワードは、「**長期**」「**積立**」「**分散**」投資。そして、「**非課税制度**」です。

- (4) もちろん、上記以外の投資方法もあります（例：相場観に基づいて売買し、積極的に増やそうとする）が、この講義では省略します。
 - － 積極的な投資方法では、自分自身のリスク許容度の把握とリスク管理が特に重要です。生活資金以外の当面使う予定のない資金が向いています。

（注）リスク：利益や損失の不確実性（振れ幅）のこと。詳細はP28・29参照。



3-2. 利子と金利

(1) 利子（利息）

借りたり貸したりしたお金に、一定の割合で支払われる対価（金額）

(2) 金利（利率）

お金を借りたり貸したりする時の「値段」です。
元本に占める利子の割合（％）で表示されます。



（例）1万円を金利5％（年率）、期間3年で預けた場合

- ・ 年5%の金利の場合には、10,000円は、1年後に10,500円になる。
- ・ 10,500円をそのまま預ければ、2年目には、11,025円になる。
- ・ 3年目には、11,576円（端数は切り捨て）になる。

👉 利子も預ければ、その利子にも利子がつく ⇒ 「複利」という。



3-3. 金利を実感してみよう（72の法則！）

72の法則 「元本が2倍になる金利と年数の関係」

$$72 \div \text{金利} \div \boxed{}$$

(%) お金が2倍になる期間（年）

（例）10,000円（元本）が20,000円になるのに必要な年数

世代イメージ

祖父母世代

預金金利：8%

親世代

預金金利：6%

今

預金金利：0.001%

10,000円(元本)が
20,000円になるのに
必要な年数

約9.0年

$$72 \div 8$$

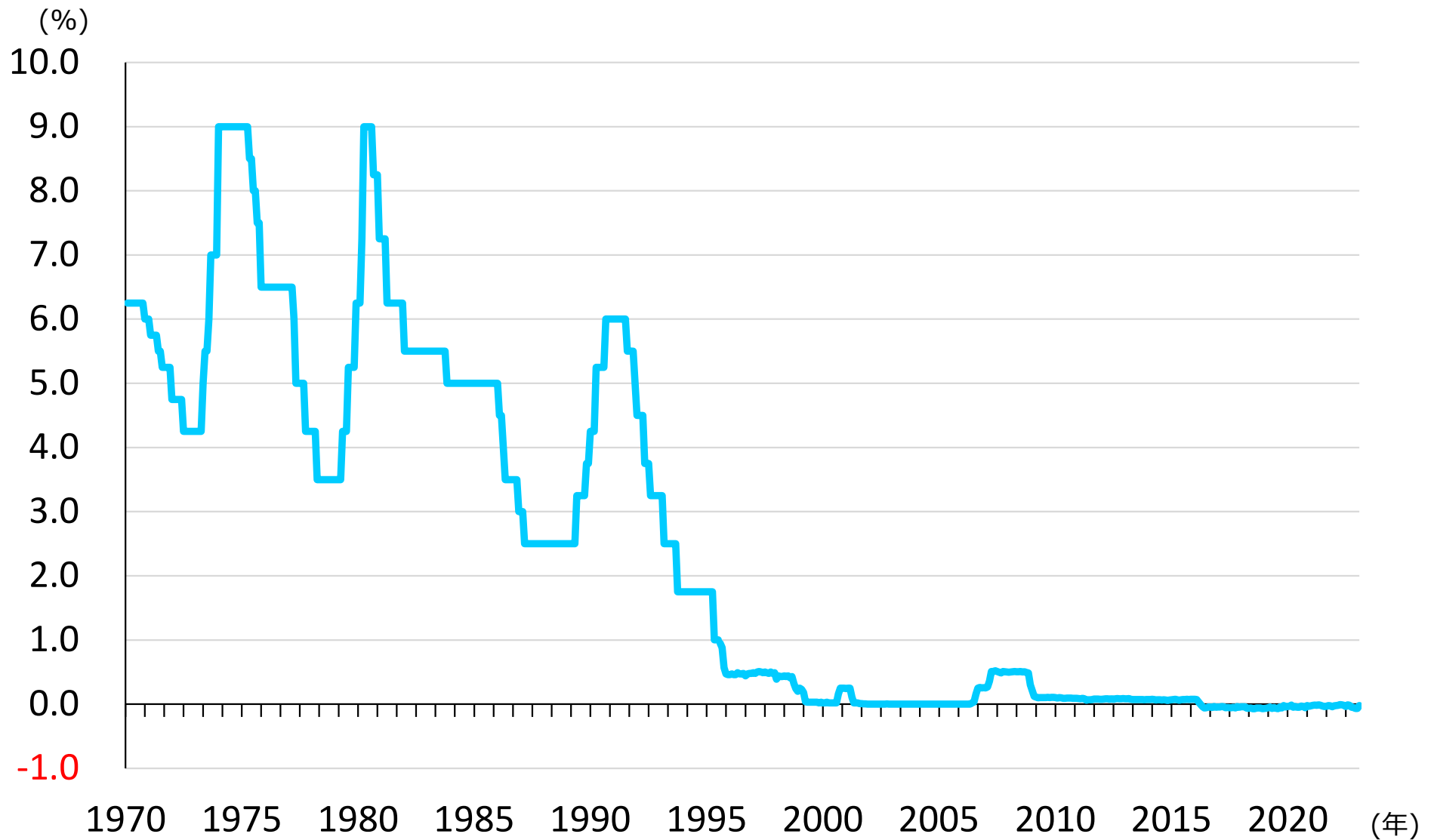
約12年

$$72 \div 6$$

約72,000年

$$72 \div 0.001$$

3-4. 金利の推移



(出所) 日本銀行

(注) 1995年6月までは公定歩合（基準貸付利率）、それ以降は無担保コールO/N物レートの月中平均金利



3-5. お金の持ち方・扱い方と将来に向けて ①

様々な手段

・お金の持ち方・扱い方には、様々な手段がある。

預金 貯金

- ・銀行等にお金を預けること

債券

- ・発行者が借りるお金
- ・発行者は、お金を返す必要あり
- ・国が発行するものを国債、会社が発行するものを社債という

例えば日本国債、トヨタ社債
など

株式

- ・株式会社の事業の元となるお金
- ・会社は、お金を返さなくてよいが
配当する
- ・会社の価値によって、株式の価
値（株価）も変動する

例えば日本製鉄株、武田薬
品株など

投資信託

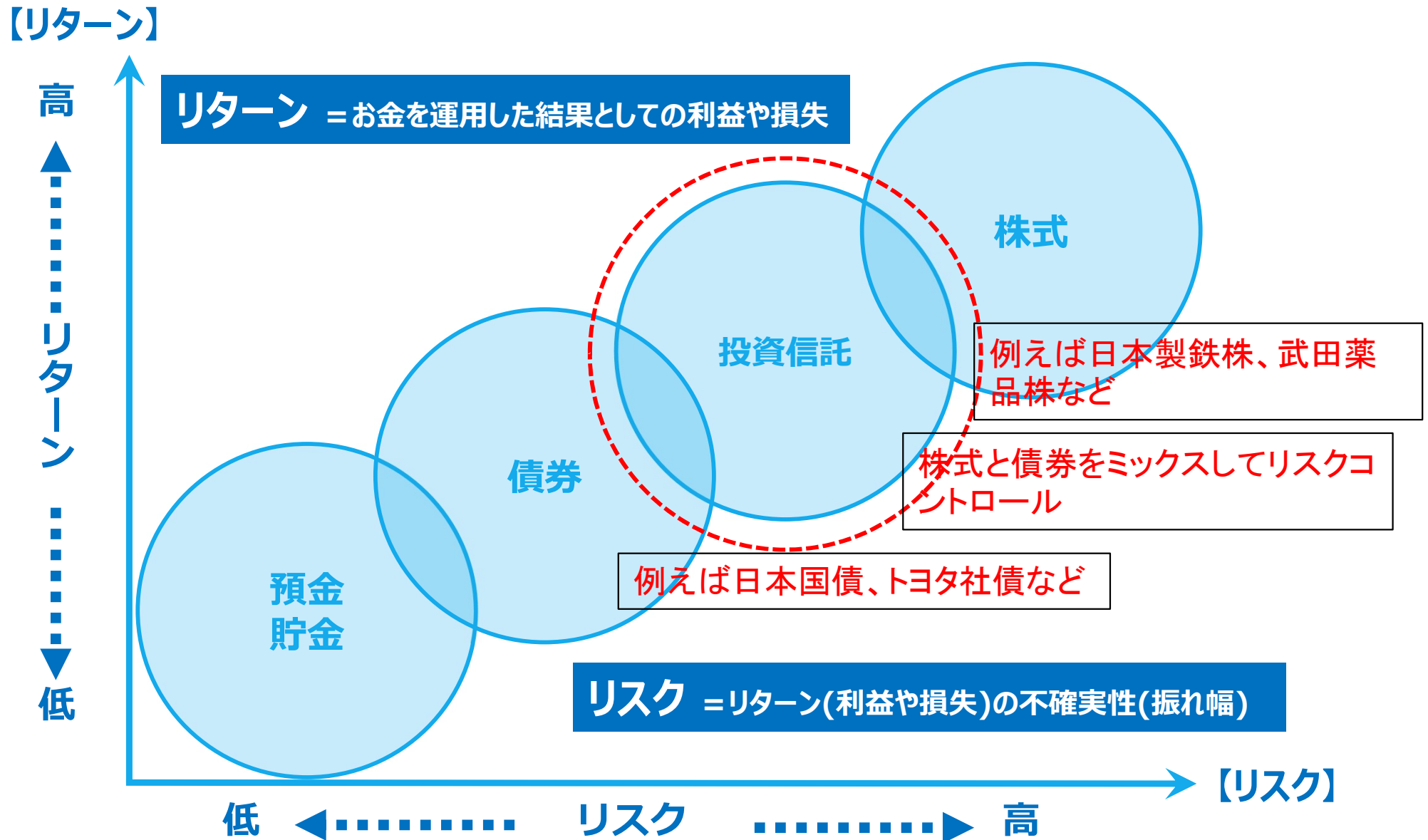
- ・多くの人から集めたお金を、1つに
まとめて大きな資金にし、株式や
債券などに投資する仕組み
- ・価格が日々変動する

株式と債券をミックスしてリス
クコントロール

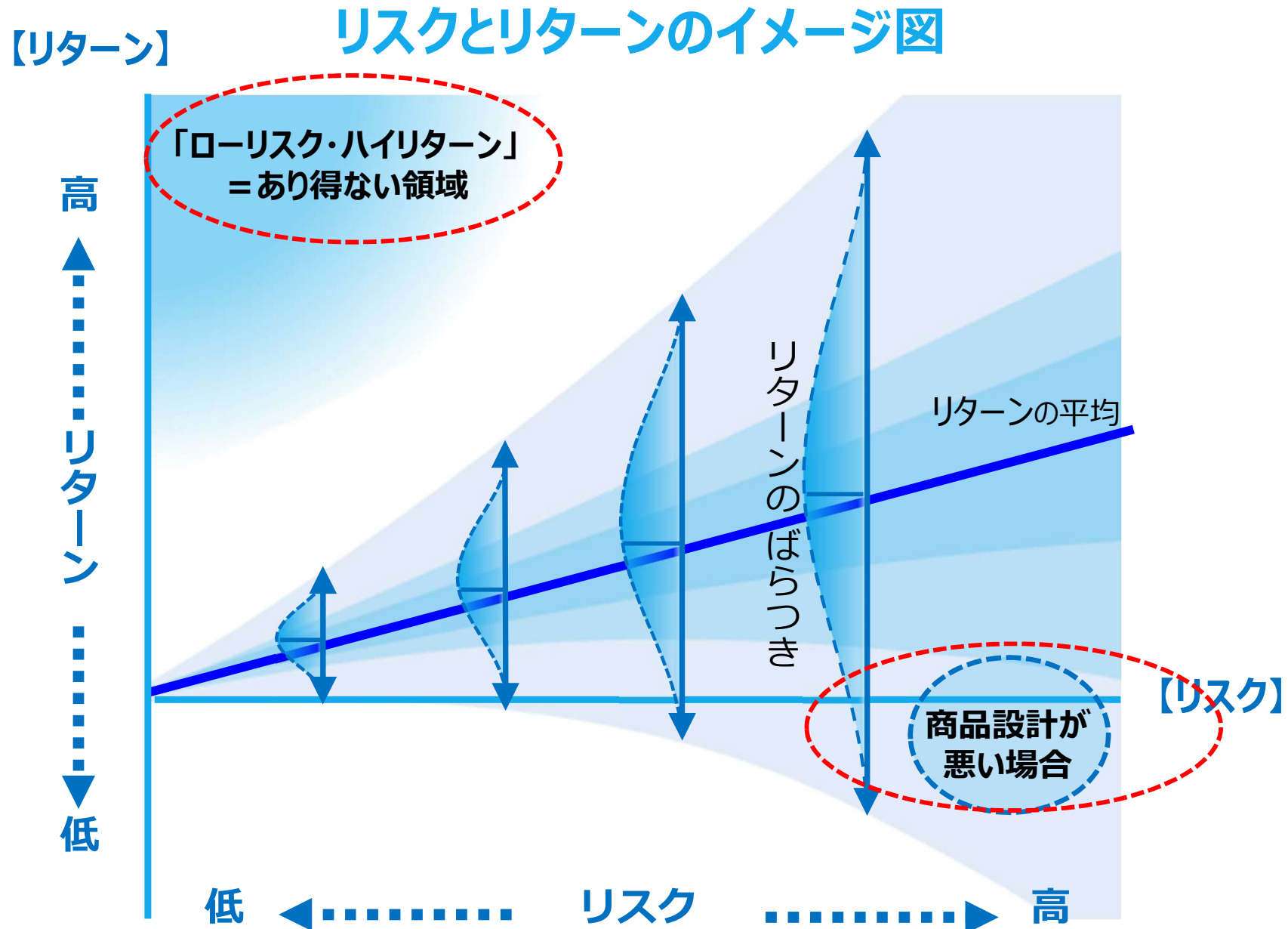


3-5. お金の持ち方・扱い方と将来に向けて ②

(注) あくまでもイメージです。厳密な表現ではありませんので、ご注意ください。



3-5. お金の持ち方・扱い方と将来に向けて ③



リターン＝お金を運用した結果としての利益や損失 リスク＝リターン(利益や損失)の不確実性(振れ幅)

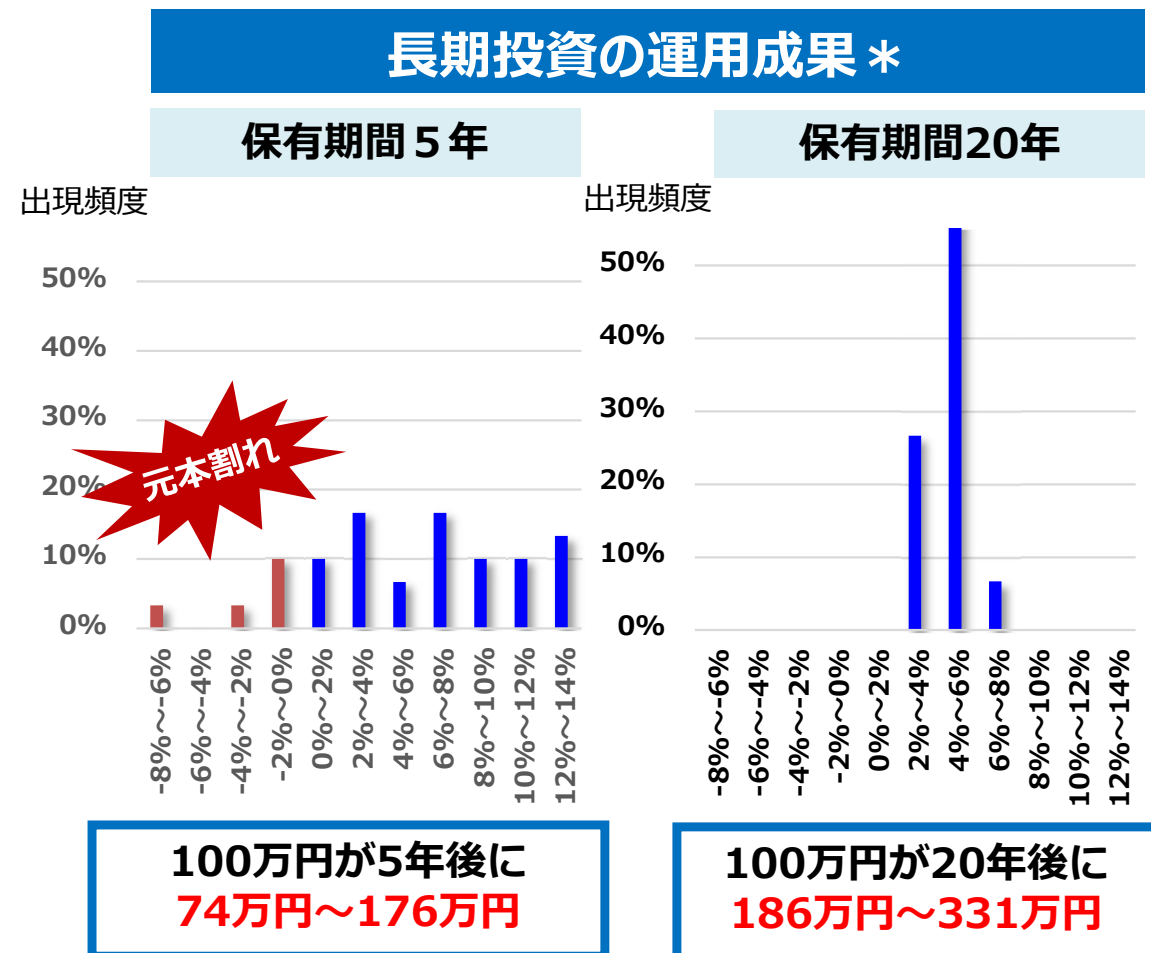


3-7. 長期投資

(1) 投資を長期間続けると、分散投資（後述）や複利の効果等とあいまって、結果的に元本割れする可能性の低減が期待できます。

(2) ただし、途中で売ったり積立投資をやめてしまうと、こうした効果は弱くなります。

(3) 例えば、投資信託の価格（基準価額）は上がったり下がったりしますが、こうした動きに過度に一喜一憂することなく、後述する
積立・分散投資を長期間にわたって続ける方が結果的にパフォーマンスが上がるのが過去の実績です。



＊ 1989年以降、毎月同じ金額ずつ国内外の株式と債券に積立投資を行い、5年間と20年間それぞれ保有した場合についての年間収益率と運用結果を計算したもの(金融庁作成)



3-8. 積立投資

- (1) 積立投資*とは、「あらかじめ決まった金額」を「続けて」投資することです。
- (2) 定期的に積立投資をすることで、安いときに買わなかったり、高いときにだけ買ってしまったりすることを避けられます。
- (3) 積立投資は、まとまったお金がなくても、少額からすぐ始められます。

* 積立投資は、「時間分散」の概念で分散投資で説明する場合がありますが、本稿では「時間分散」は積立投資の枠組みとします。



3-9. 長期投資+積立投資の効果 バブルのピークに投資した最悪ケース



年(末)	投資元本累計	時価	含み損益
1989	29,412	29,412	0
1992	117,647	84,735	▲ 32,912
1995	205,882	192,060	▲ 13,822
1998	294,118	210,929	▲ 83,188
2001	382,353	228,931	▲ 153,422
2004	470,588	349,925	▲ 120,664
2007	558,824	549,738	▲ 9,086
2010	647,059	459,240	▲ 187,819
2013	735,294	863,593	128,299
2016	823,529	1,104,406	280,876
2019	911,765	1,461,591	549,826
2022	1,000,000	1,696,245	696,245

ピーク時に100万円買ったとすると、
2022年末では、**約33万円の含み損**

ピーク時から毎年末に約2.9万円を買い続けてきたとすると、2022年末では、**約70万円の含み益**

積立投資を利用する。

投資の方法には、一括購入と積立購入があります。両者の違いを見てみましょう。

一括購入

手持ち資金全額で
一度に購入



定額購入

(ドル・コスト平均法)

毎回、決められた
金額ずつ購入



■2つの購入方法を比較してみましょう

株価が、1,000円、1,500円、500円、1,000円と動いた場合の一括購入と定額購入の株数と購入単価の違いを
見てみます。投資金額は全部で 40,000円です。

一括購入は、1回で 40,000円分購入、購入株数は 40株、平均購入単価は 1,000円です。

定額購入は、4回に分けて毎回10,000円分購入、購入株数は 46.6株、平均購入単価は、858.3円です。

定額購入は、金額が毎回同じですから、価格が安い時には購入する数量が多くなり、価格が高い時には購入する
数量は少なくなります。定額購入の方が、株数が多く、平均購入単価が低くなっています。

定額購入は、機械的に購入することでリスクを抑える効果が期待できる方法といえます。

定額購入の優位性

株価の動き		1,000円	1,500円	500円	1,000円	合計株数 合計金額	平均購入単価
一括購入	株数 (株)	40	0	0	0	40	1株 当たり
	金額 (円)	40,000	0	0	0	40,000	1,000
定額購入 (ドル・コスト平均法)	株数 (株)	10	6.6	20	10	46.6	1株 当たり
	金額 (円)	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000	858.3

一定の金額

※定額購入は、必ず利益が出る方法でも、大きく儲けるための方法でもありません。場合によっては(例えば、購入する金融商品の価格が下落し続けるなど)損失を被る場合もあります。



3-10. 分散投資

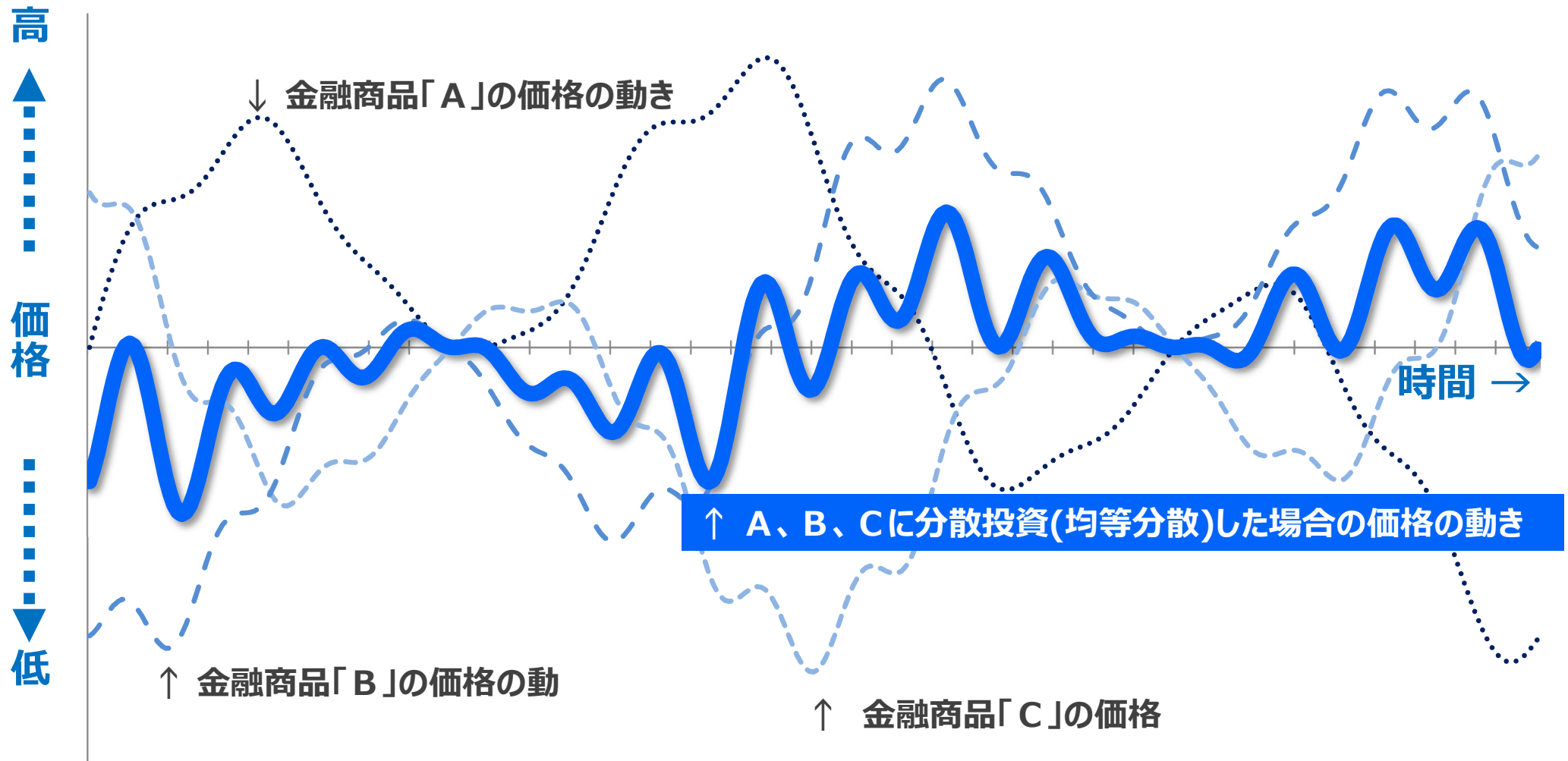
- (1) 1つの資産だけに投資するよりも、投資信託等をとおして値動きの異なる複数の資産に分散投資を行うことで、価格の変動が小さくなり、リスクを軽減することが期待できます。これを「**資産の分散**」と言います。

- (2) 投資先の地域を分散することにより、より安定的に世界経済の成長の果実（利益）を得ることが期待できます。これを「**地域の分散**」と言います。



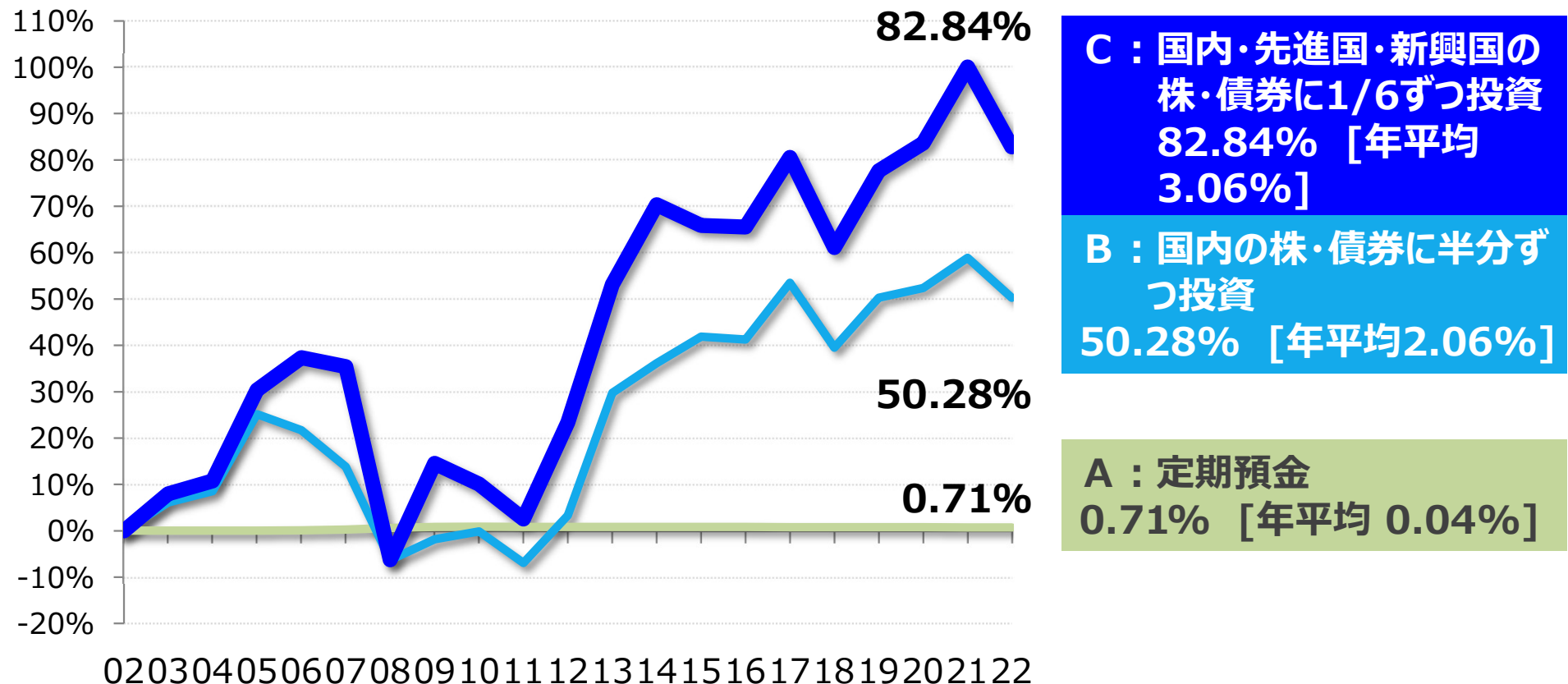
3-11. 分散投資の効果

異なる価格変動をする金融商品を組み合わせると・・・



3-12. 長期・積立・分散投資の効果

長期・積立・分散投資の効果（実績）



(注) 各計数は、毎年同額を投資した場合の各年末時点での累積リターン。株式は、各国の代表的な株価指数を基に、市場規模等に応じ各国のウェイトをかけたもの。債券は、各国の国債を基に、市場規模等に応じ各国のウェイトをかけたもの。

(出所) Bloombergより、金融庁作成



3-14. NISAとiDeCo

ライフプランに柔軟に対応するNISAと 老後資産形成に適したiDeCoとで 目的に応じた使い分けを

	つみたてNISA ^(注1) (つみたて型の少額投資非課税制度)	一般NISA ^(注1)	iDeCo(イデコ) (個人型確定拠出年金)
対象者	次ページ新制度に変更		原則20歳以上65歳未満 (公的年金被保険者)
拠出限度額 (年間)			年間14.4～81.6万円(注3)
投資可能商品			投資信託 保険商品 定期預金等
購入方法			定期的・継続的に積み立てる
払出し制限			原則60歳まで引き出し不可
税の優遇	運用益が非課税		毎年
	つみたてNISAと一般NISAは併用不可		毎年の所得税や住民税が少なくなる。受取時に支払う税金が少なくなる。

(注1) つみたてNISA、一般NISAは2023年までの制度であり、金融商品の購入を行うことができるのは2023年まで
2023年中に購入した金融商品についても、つみたてNISAでは20年間、一般NISAでは5年間、非課税で保有することができる

(注2) 1月1日時点で18歳以上の場合にNISA口座を開設できる

(注3) ・国民年金のみに加入の自営業者等：68,000円/月 ・公務員：12,000円/月 ・専業主婦(夫)等：23,000円/月
・会社員：企業年金無し23,000円/月、企業年金有り最大20,000円/月 (企業年金加入状況により異なるので、詳細は勤務先にご確認ください)

3.「貯める・増やす」～資産形成

金融経済教育推進会議コアコンテンツ準拠

3-15. 2024年1月からの新しいNISA

NISA制度が抜本的に拡充・恒久化され、簡素で分かりやすく、使い勝手のよい制度に

	つみたて投資枠	併用可	成長投資枠
年間投資枠（注1）	120万円		240万円
非課税保有期間	無期限化		無期限化
非課税保有限度額 （総枠）（注2）	1,800万円 ※簿価残高方式で管理（枠の再利用が可能）		
			1,200万円（内数）
口座開設期間	恒久化		恒久化
投資対象商品	長期の積立・分散投資に適した 一定の投資信託 〔 現行のつみたてNISA対象商品と同様 〕		上場株式・投資信託等（注3） ①整理・監理銘柄②信託期間20年未満、 毎月分配型の投資信託及びデリバティブ 取引を用いた一定の投資信託等を除外
対象年齢	18歳以上		18歳以上
現行制度との関係	2023年末までに現行の一般NISA及びつみたてNISA制度において投資した 商品は、新しい制度の外枠で、現行制度における非課税措置を適用 ※現行制度から新しい制度へのロールオーバーは不可		

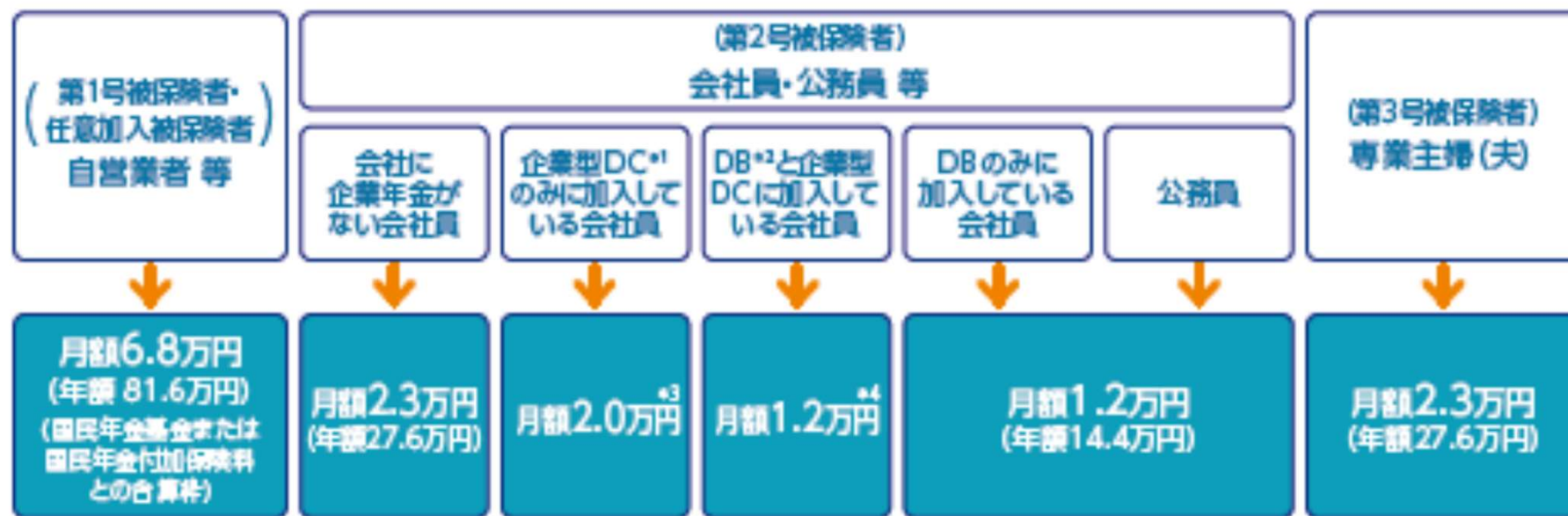
（注1）非課税保有期間の無期限化に伴い、現行のつみたてNISAと同様、定期的に利用者の住所等を確認し、制度の適正な運用を担保

（注2）利用者それぞれの非課税保有限度額については、金融機関から一定のクラウドを利用して提供された情報を国税庁において管理

（注3）金融機関による「成長投資枠」を使った回転売買への勧誘行為に対し、金融庁が監督指針を改正し、法令に基づき監督及びモニタリングを実施

（注4）2023年末までにジュニアNISAにおいて投資した商品は、5年間の非課税期間が終了しても、所定の手続きを経ることで、18歳になるまでは非課税措置が受けられることとなっているが、今回、その手続きを省略することとし、利用者の利便性向上を手当て

図2 加入資格ごとの拠出限度額



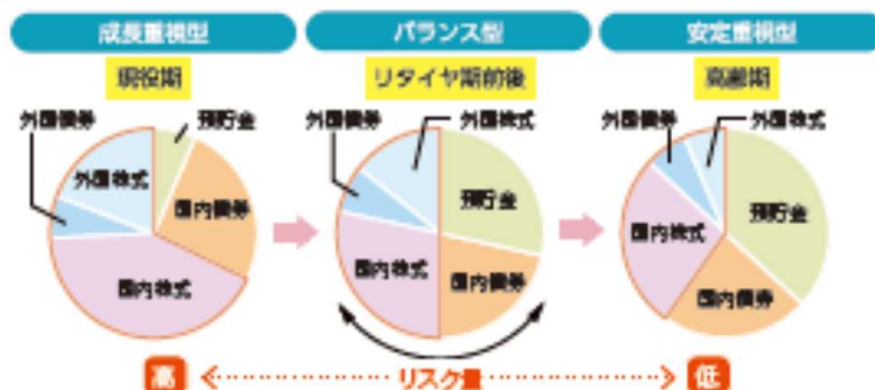
*1 企業型DCとは、企業型確定拠出年金のことをいう。 *2 DBとは、確定給付企業年金(DB)、厚生年金基金、石炭鉱業年金基金、私立学校教職員共済をいう。

*3 企業型確定拠出年金(企業型DC)のみに加入する場合 月額5.5万円(各月の企業型DCの事業主拠出額(ただし、月額2万円を上限))

*4 企業型DCとDB等の併存制度に加入する場合 月額2.75万円(各月の企業型DCの事業主拠出額(ただし、月額1.2万円を上限))

出典:国民年金基金連合会「DeCo公式サイト「DeCo(イデコ)」の加入資格・拠出・受取方法等」をもとに加工して作成 <https://www.ideco-koushiki.jp/guide/structure.html>

図3 年齢等によるリスク量の管理が重要(ポートフォリオ管理)



出典:日本証券業協会ホームページ「サクサクわかる!資産運用と証券投資スタートブック」の一部を編集・加工して作成
https://www.jsda.or.jp/jikan/publications/files/pdf/pub_1-1-01.pdf

年齢によるポートフォリオの
作り方は新NISAも同様です

リスク資産比率の一つの考え方

- ・100マイナス年齢＝リスク資産比率
30歳なら
- ・100－30歳＝70%

国民年金基金連合会資料

投資先を1つに集中させるより、 いくつかに分散させて、リスクを抑えよう。

2-4

当面使う予定がないお金を使って投資しても、リスクはできる限り抑えるべきです。
投資には、リスクを抑える方法の1つとして、「分散投資」という考え方があります。
リスクを抑えるために、投資先を1つに限定せず、複数の投資先にバランスよく投資しましょう。

分散

万一の損失を最小限に抑えるために、投資先を「分散」させる。

投資の世界の格言! 「1つのカゴに卵を盛るな」。

1つのカゴに卵を全部入れておくと、カゴを落としたときに卵が全部割れてしまうので、
あらかじめ複数のカゴに分けておくことで、被害を最小限に抑えようという考え方です。

卵を1つのカゴに全部入れた場合
(投資先が1つの場合)



1つにまとめておくと、
カゴを落としたときに全てがダメに…

複数のカゴに分けた場合
(投資先を分けた場合)



分けておくと、1つを落としてしまっても、
残りは大丈夫!

主な分散の方法は3つ

資産の分散

特徴の異なる複数の**資産**を
組み合わせる



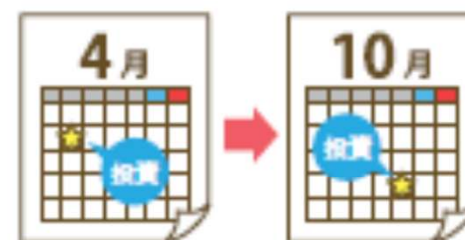
地域の分散

複数の**地域や通貨**を
組み合わせる



時間の分散

投資の**タイミング**を
何度かに分ける



「分散投資」とあわせて、「長期投資」を行うことで、心の余裕も生まれます。

まとめ

- 男性で90歳。女性で95歳までのライフプランを考えましょう
- どんな人生を送りたいかを考える。やりたいことに優先順位をつけましょう。夢を実現する道具が「お金」です
- 老後生活の資金の中心は「公的年金」です
- 医療保険制度、介護保険制度でできることを学びましょう
- ライフステージ別お金の注意事項に気を付けましょう
- 子や孫世代も金融知識が十分とは言えません。資産形成に早く取り組むべきことを伝えていきましょう
- 「長期投資、時間分散投資、投資対象の分散、非課税、税制優遇」が資産運用の基本です
- 高齢期は計画的資産取り崩しと身体機能、認知機能の衰えへの対応を考えましょう

最後に

- 今日という日はあなたの人生で一番若い日です。いつから始めますか？

→今日でしょ!!

・今日のお話が皆様の人生を豊かなものにすることを祈っています!!